

国語科	違いを感じて、魅力を伝えよう	中岡 正年
6年B組	「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、私はこう見る」	

1. 単元について

本教材の「『鳥獣戯画』を読む」は、国宝である絵巻物『鳥獣人物画』の一場面を取り上げて、その魅力について解説をした説明的文章である。読み手を意識し、巧みな書き出しや文末表現で、まるで筆者の高畑氏が語りかけてくるような文章である。また印象的な場面の一部を提示したり二枚の絵を比較したりすることで作品に対する筆者のものの見方・考え方が読み手に分かりやすく伝わってくる。このような特徴があることにより、絵と文章を照らし合わせ、筆者のものの見方・考え方を読み取りやすくしている。そして、ある作品について自分が感じた魅力について他者に伝える文書を書く活動に生かしていくことができる。さらに、文章全体から一場面の絵の表現だけではなく「鳥獣戯画」に対して筆者が非常に高い評価をしているため、自分が読み取ったことや感じたことを他者に伝える表現の工夫や効果について学習していくことに適している。

これらのことから「この絵、わたしはこう見る」を単元の最初と最後に行うことを構想し、読む領域でつけた力を書く領域で生かしている。また書くことを意識して主教材を読むというように、読むことと書くことを相互に作用させる単元を設定する。そのために単元を通して、自分のお気に入りの作品の魅力を伝える言語活動を意識させたい。

子どもたちは、以前にも図工科において、鑑賞の学習を行っている。しかし、自分の感じたことを書くのみに留まり、他者を意識して自分の見方や感じ方を伝える表現はあまり見られなかった。そこで、今回は自分のお気に入りの作品の魅力を伝えるために、感じたことや考えたことを表現する方法や書き方について「鳥獣戯画を読む」で学び、表現できるようにしたいと考えた。

自分の感じたことを文章化する課題を設けることによって、主教材を読む意識を高め子どもたちが、必要性をもって本教材を読もう、理解しようとする学習の場面にしたいと考えている。

2. 単元設定の理由

(1) 本実践の主張点

感じ方が違う他者に、いかに自分の思いを伝えるかについて思考することで、ものの見方・考え方を広めたり深めたりし、伝えるために必要な表現を身につけることができる。

単元の導入では、実際に美術館に展示されている絵を鑑賞し、その中からお気に入りの作品を選び、「作品の魅力について伝える」という課題を設定し、単元を通してその活動を意識させる。自分の感じた魅力について伝える際に「鳥獣戯画」の魅力について書かれている主教材を読むことに目的が生まれ、高畑氏の文章表現を積極的に参考にしていきたいと考えている。また、「この絵、私はこう見る」の読み取ったことや感じたことを表す文章表現も参考になると考えている。

このように実際に自分のお気に入りの作品について書くことを意識し、主教材を読み取る際には、「筆者が作品のどこに着目し、どのような見方や考え方をしているのか」「筆者はどのような言葉で『鳥獣戯画』を説明したり評価したりしているのか」「筆者は読者に分かりやすく伝えるための工夫はどのようなものか」という読む視点を設けたいと考えている。

(2) 教科提案との関わり

本年度の国語科部は「つながり学び合う子ども～視点が交わる読みの授業～」をテーマにしている。学習の「つながり学び合う」とは子どもの「知りたい」「読みたい」「聞きたい」「伝えたい」といった意欲的な活動や思いが、単元を通して継続されることと捉えている。本単元では、「作品の魅力について伝える」

という活動が、読むことと書くことをより、密接に関連させる。さらに、感じ方の違う他者に自分の思いを伝える際、読みの視点や感じ方に違いがあることに気づき、いかに伝えていくかを思考と試行を繰り返すことになるかと期待している。それは、何かを得るために文章を読み進め、他者の考えに触れ、自分の知識や知恵としていくことであり、自然な学習のつながりともいえる。主教材で学んだ表現や文章を構成する活動は教科を越えて生かし、自分たちの思いを伝えられるようにしていきたいと考えている。

3. 単元目標

- ・絵巻物に対する筆者の説明的な文章に興味をもって読もうとしている。【関】
- ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えている。【読(1)ウ】
- ・自分と他者とももの見方や感じ方の共通点と相違点を明らかにし、自分の考えを深めている。【読(1)オ】
- ・自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫して書いている【書(1)オ】

4. 単元計画(全12時間 本時 8/12)

次	時間	主な学習活動
第一次	第1時	魅力を伝えたい作品を選ぶ。
	第2時	「この絵、私はこう見る」において、思いを伝える表現を知る。
第二次	第3時	「鳥獣戯画」を鑑賞し、「鳥獣戯画」に対する自分の思いをもつ。
	第4時	『鳥獣戯画』を読むを読み、高畑氏との見方や考え方の共通点や相違点について友だちと交流する。
	第5時	絵と文章を照らし合わせ、筆者の「鳥獣戯画」に対する見方を捉える。
	第6時	筆者が、自分の見方を読者に伝えるために、表現や構成で工夫していることを見つける。
	第7時	高畑氏の「鳥獣戯画」に対する評価がわかるところを見つける。
	第8時	高畑氏が、「鳥獣戯画」を高く評価しているのはなぜかを考える。(本時)
第三次	第9時	美術館に展示されている作品について読み取ったこと、感じたことを書く。①
	第10時	美術館に展示されている作品について読み取ったこと、感じたことを書く。②
	第11時	美術館の作品について読み取ったこと、感じたことを書き、互いの文章について感想を伝え合う。
	第12時	自分が感じたことを他者に伝えることについて、自分の成果物から振り返りを行う。

5. 本時について

本時は、自分の感じた思いと筆者の思いに違いがあること、同じ作品を鑑賞しても、自分と友だちの感じた思いに相違があることを知る。そして、筆者である高畑氏が「鳥獣戯画」を非常に高く評価しているのはなぜかを考える場面である。

自分が「鳥獣戯画」について感じた思いと高畑氏の思いの違いはどこから来るのか。その思いを探ることで、価値観が違う読み手に作品の魅力を伝えるためにはどのような言葉で表現しているのかに着目してほしい。そして、自分の感じた思いを相手に伝えるに表現について思考することを願っている。このようにして、本時で深めたことを今後の場面で活用させていきたい。

自分と他者は感じ方に相違があることに気づいた時、自分の思いを価値観の違う他者に伝える表現方法を探るために、主教材を読み、友だちとの意見を聞きあうことでもの見方・考え方を広めたり深めたりすることができるようになることを願っている。